

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2373400429		
法人名	医療法人 ふなびきクリニック		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	犬山市前原西3-33 (電話) 0568-65-3344		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年9月7日	評価確定日	平成19年10月11日

【情報提供票より】(平成19年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年11月4日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	44 人	常勤	17人, 非常勤 27人, 常勤換算 4.35人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30日: 51,000 円 31日: 52,700 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	550 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年8月10日現在)

利用者人数	27名	男性	5名	女性	22名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	11名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.6歳	最低	70歳	最高	96歳
協力医療機関名	医療法人 ふなびきクリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昭和61年開院の地域医療の核となる病院が母体であり、敷地内にはクリニック、デイケアセンター、デイサービスセンター、有料老人ホーム、老人保健施設等が併設されている。医療面や入退居の支援において充実しており、入居者、家族の安心につながっている。毎日医師の往診があり、入居者は週1回受診している。介護度の高い方、終末期にも対応しており、過去に経験もある。身体と頭の活性化を目的として、毎朝ラジオ体操、グーパー体操、お話会、歌等を行っている。入居者一人ひとりについて、何ができて、何ができなくなったかを見極めを職員は大切にし、全てサポートしてしまうのではなく、どのようにサポートしたらその人らしく過ごして頂けるかを日々話し合っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>徒歩1分のクリニックが24時間、365日対応してくれるため、緊急時の対応マニュアルは用意していなかったが、前回の評価を受けすぐに整備した。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>10年近いキャリアの職員も多く、日頃の介護についてのセルフチェックを毎月実施している。今回の評価に対してもカンファレンスで説明を受け、皆で取り組んだ。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2カ月に1度開催しており、6月の会議では4,5月の活動報告と江南保健所の栄養士による「食事バランス」の講演を行った。参加者からは、率直な意見を頂き、介護のプロとしてよりよい介護に尽くしたいと気持ちを新たにしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族に年に2度、アンケート調査を実施している。返信用封筒を同封し、回収率は70%位である。ホームの良い点、優れている点、改善して欲しい点、気になる点のアンケートへの回答は家族に送付し、ホームの見やすい場所にも掲示している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人々、自治会、老人会との双方向的な関係ができています。毎月発行の「ほほえみだより」は地域に回覧している。自治会の「歩け歩け大会」にも参加し、老人クラブからは講師依頼を受け、老人クラブ民謡舞踊会からの招待もある。犬の散歩道に花壇をつくったことがきっかけとなり、飼い主と犬がアニマルセラピーで年に数回訪問している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「おひとり、おひとりが主役のグループホームでの生活を職員はサポートさせていただきます」という理念が、各フロア、玄関、事務所の見やすい所に掲示されている。		運営推進会議には、自治会・老人会・市役所・警察署・消防署・保健所等の協力もある。地域老人会と親しく交流し、地域の方の気軽な来訪もあり、十分地域に密着したサービス提供をしている。が、理念の中に「地域」の言葉の文章化を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	3ユニット合同で行う、毎朝の申し送りやミーティング等で、管理者と職員全員が理念について話し合いの機会をもち、意識づけがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人々、自治会、老人会との双方向的な関係ができています。自治会主催の「歩け歩け大会」にも入居者10人が参加した。入居者2人にサポート役の職員1人も参加し、車椅子を持って歩く場面もあった。参加型の夏祭りにしたいと、毎朝、炭坑節の練習も行った。老人クラブから「認知症について」の講師依頼も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	徒歩1分のクリニックが24時間、365日対応してくれるため、緊急時の対応マニュアルは用意していなかったが、前回の評価を受けすぐに整備した。毎月、職員は日頃の介護についてセルフチェックしている。今回の自己評価はカンファレンスで説明を受け、皆で取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1度開催している。会には、自治会、老人会、市役所、警察署、消防署、保健所等の協力がある。家族、入居者も出席し、出席できない家族からは意見を頂いている。会議報告書は家族、市役所、自治会、ゲスト等の出席者に配布し、ミーティングで職員全体で話し合っている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>犬山市より2~3カ月に1回、介護相談員の訪問があり、アドバイスを受けている。市役所、入居者、地域の方々との信頼関係を重視し、報告など市役所との連携を大切にしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「ほほえみだより」を毎月家族に郵送している。健康状態は面会時や電話にて報告している。レクリエーションを兼ね、入居者と職員が1対1で買い物に出かけた時には、本人にお金を渡し支払ってもらっている。個人で現金を管理している方は少ないが、週に1回出金要件を入居者に確認している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は無いが、運営推進会議の家族の出席は多く、意見も伺える。ホーム独自のアンケートを家族に依頼し、アンケート結果や改善点をカンファレンスで話し合っている。また、「家族の意見とホーム回答」としてまとめた文書を、見やすいよう壁面に掲示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動、離職を最小限に抑えるため、可能な限り手当等の給与改善を行い、離職率は低い。入居者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となるよう努力している。夜勤専門の職員が3名いる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修は採用後1カ月以内で、継続研修は年1回としている。外部研修への参加は出勤扱いとし、費用は会社で負担している。出席者は研修記録を提出し、カンファレンスで報告し、研修内容を皆で共有する。看護師や保健師、他部署の主任などによる老人保健施設との合同研修も、毎月行っている。毎朝の申し送りや毎月のカンファレンスでも勉強している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム連絡協議会に出席し、同業者と協働しながら質の向上に取り組んでいる。見学会や研修などで他のグループホームとの双方向的な交流も行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員と顔馴染みになるよう、入居者には事前に面接を行っている。その後、1日何時間かホームを利用してもらう、他の入居者や雰囲気に馴染めるよう職員は支援している。新しい入居者をホームの入居者は温かく受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	先輩である入居者から職員はたくさんの事を教えてもらい、できた事を喜び合い、喜怒哀楽を共にし、お互いに支え合う関係を築いている。もう少しできそうな所を介護計画に反映し支援している。できる事は行って頂き、見守る介護、できた事を喜び合う介護に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p align="center">.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションを多く持ち、その人らしく生活するにはどうしたらよいか、考えながら日々接するにしている。毎朝のお話会や庭でのグループワークでも、山の昔話や祭り、山に登りたい、野点をしたい等と入居者の話が広がっていく。話の中でお互いの歴史を知り、互いに尊重し合える関係がつけられている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のカンファレンスは、休みの職員には時間給が付き全員参加している。介護計画にはアセスメント時の家族からの情報と面会時の情報、入居者からの希望、日常職員の気づきのメモファイルも参考にする。ケースカンファレンスやミーティング、毎月のカンファレンスでアイデアを出し合い、医療関係者の意見を考慮して作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し期間は短期で3カ月、長期で6カ月と定められ、規定通り見直されている。期間に満たなくても介護度が変更された場合や急変時には直ちに見直している。家族との会話の中での一言を聞き漏らさず、実現化できるように要望を計画に反映している。変化が無い場合でも月1回はカンファレンスを開催している。</p>		
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>母体が隣接する病院であり、ホームドクターでもあるため、何時でも医師の判断を仰げる体制が整っている。電話1本ですぐにかけつけ、24時間365日支援している。外科や他科への受診は、ホームで家族を含めて送迎している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が地域医療の核となる病院であり、かかりつけ医は入居前から当該医師である入居者も多い。歯科や皮膚科、外科等にはホームで送迎をしている。医師の往診が毎日あり、入居者は週1回受診している。看護師も日に何度か訪れ入居者の様子を確認している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書には、ホームの重度化に対する考え方、視点、支援内容、看取りの具体的な内容が詳細に記されており、家族も合意の上で署名捺印している。終末期には医師の判断により、家族に対して看取りについての確認をし、多くの家族はホームでの看取りを希望している。結果については、職員全員に周知され、終末期の対応が図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個人記録は秘すべきものではない」という管理者の信念の基、各フロアにて管理されており、覆いに「自由に見てください」と書き、家族も閲覧できるようにしている。排泄チェック表は、入居者や家族の目に触れないように上に紙を重ねている。職員は、入居者の前では本人についての話しをしないよう徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	友人と1泊旅行に出かける入居者もあり、その時は同行者に服薬管理をお願いしている。入居者は買い物に出かけたり、晩酌を楽しんだりと思いつきのペースで過ごしている。その日すべき日課は定めず、入居者の体調や希望に合わせて活動している。気ままに朝寝坊、夜更かしを楽しむ入居者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者の手料理が評判でリクエストの度に管理者は腕を振っている。食事を拒否される方には、辛抱強く対応し、45分で80%摂取を目安にしている。難しい場合は、看護師に相談している。行事にはそれにふさわしい料理を用意し、誕生日には入居者の希望の食事を用意している。法人の栄養士により献立は管理されており、食材は法人グループで一括購入している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であるが、概ね1日おきの週3回となっている。入浴時間は入居者の希望で午後4時から対応しており、朝湯を希望する入居者もいる。就寝前の入浴を希望された場合は、夜勤者のみのため、一人で入れる方であれば対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近所のスーパーへの買い物、洗濯物たたみ、調理、洗い物等、入居者それぞれに担当が決まっている。華道の先生をしていた方が職員の生けた花を指導したり、元お茶の先生が他の入居者にお茶を点ててくれたり、自分の得意な分野でそれぞれの能力を発揮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今年の夏は異常な暑さのため、日常的に散歩に出かけることは無理だったが、涼くなったら散歩にでかける予定をしている。周囲に田園があり、散歩がてら稲刈りの見学に行くことを楽しみにしている。散歩の途中に近所の喫茶店の方が声をかけてくれたり、花屋の方が花を手渡してくれる。毎年、車で名所に出かけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は全ての扉をオープンにしている。エスケープ対策として、県道に通じる外扉には赤外線センサーを設置している。「ちょっと帰ってくる」と出て行かれる入居者もあり、月に1~2度管理者が同行してお茶を飲み自宅に行き、本人の願望に応えている。近所の方もエスケープの際には協力してくれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、隣接施設と共に避難訓練を実施している。訓練は消防署や民間業者から指導を受けている。初期消火、通報訓練、連絡体制の確認等を行っている。消火器具も年2回、業者による点検を受けている。食料等の備蓄に関しては、法人で一括管理しており、3日分を確保している。夜間対応、震災避難訓練も実施し、入居者は日頃の階段昇降を訓練としている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は法人で一括購入し、入居者と共に調理している。食事量や水分量は介護記録に記録されている。水分摂取量は800ccを下限としており、下回る場合は、看護師に相談している。法人の栄養士が献立をたてており、摂取カロリーや栄養バランス等が考慮されている。糖尿病や刻み食、特別食にも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、夏祭りの模様を掲載した「ほほえみだより」が掲示され、楽しげな入居者の姿が見られた。秋を先取りして、柿や紅葉を飾り季節感を演出している。天窓には夏の暑さを防ぐため、簾がかけられている。リビングには、畳のスペースもあり、自由に寛げる空間が確保されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはリースの付いた表札が掲げてあり、リースは個々によって違う。入居者は以前の生活の中で、使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真、時計、犬の置物、花等をそれぞれの好みで飾っている。温度管理は自分で調節できる方にはリモコンを渡し、自由に調節してもらっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。